小体育科教育部会

教材の本質をふまえた体育指導のあり方

～器械・器具を使った運動遊び，器械運動（マット運動）を通して～

I　研究の内容

1　研究の具体的内容

（1）器械・器具を使っての運動（遊び），器械運動（マット運動）において，できる楽しさ,喜びを味わうことのできる授業づくりについて研究する。

（2）技能を高めるための効果的な言語活動（学習資料や学習カードなどを含めて）について研究する。

（3）授業案をもとに授業実践を行う。その成果と課題について話し合い，今後の授業や研究に活かしていく。

（4）器械・器具を使っての運動（遊び），器械運動（マット運動）の研究の成果をまとめ，各小学校に広げていく実践を工夫する。

2　授業研究

4年生　「器械運動」（マット運動）　　辻　　毅　教諭　松里小

6年生　「器械運動」（マット運動）　　徳良　賢治　教諭　祝小

（1）授業実践から学んだこと

・主体的・対話的で深い学びを引き出すための学び合い活動，能力に応じた場の設定，掲示資料，学習カード等の指導の工夫。

・技を身につけさせるための基礎的な運動感覚づくりの大切さ。低学年から高学年にむけて意図的継続的に指導することの大切さや，高学年においても繰り返し取り組むことの大切さ。

・新学習指導要領の内容も踏まえ，「わかって できる」ことの大切さ。そのための手立てとして学習カードやＩＣＴ機器の活用の工夫。

・視点の大切さ。視点を絞ることの大切さ。「何を」するのか，「何に」気をつけるのかなどの視点がはっきりしていると学び合いや話し合いが深まる。そのためには，学習カードや学習資料，教師の声かけ，補助なども必要。

・それぞれの技についての「できる」ためのポイントと指導方法。専門性の高い先生から学ぶことができて良かった。

・教材の本質をふまえ，「わかる」こと「できる」ことの達成感を味わわせることを不易のテーマとし，児童の実態・発達段階に応じた授業づくりをしていくこと。

（２）授業実践から，今後さらに研究を深めたいこと

・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った，体育の授業の展開の仕方。
・学び合いや教え合いをこれからもどのように授業の中に仕組んでいくのか。
・タブレットなどのＩＣＴ機器の効果的な活用方法。
・苦手さや恐怖感のある児童への配慮。（さらなる場の工夫，補助の仕方，教師の言葉がけなど）
・教師として，児童のつまずきを見抜く力と，見抜いた後に適切な指導や支援をする力。
・場の工夫について。運動経験が少なくなってきている今，児童が主体的にその場を乗り越え，運動感覚が身についていくような場を，どの運動領域においても探求していきたい。
・技や動きのポイントの理解とそれを身につけさせるための指導法。

Ⅱ　成果と課題

１　成果

・昨年度の授業実践につながる学年で授業実践が行えたことで，運動の系統性について，昨年度までの研究成果の上に研究を積み上げることができた。
・１年間（３年間）の研究を通して，タブレット等のＩＣＴ機器の活用や様々な場の設定の工夫が運動技能の向上につながることが確認することができた。
・マット運動における系統性，感覚づくりの重要性について，再確認することができた。
・運動の特性と児童の実態を十分加味し，「全ての児童が自己の能力向上を感じられる授業」づくりを行うことができた。
・学習資料，掲示物を有効に活用した実践を行うことができた。
・組織的研究により，多くの指導助言をいただくことができ，より良い指導法を追求することができた。
・教材の本質にせまる研究を行うことができた。

２　課題

・３年間の研究の成果を各校に広げ，東山梨地域において，どの学校でも，どの学年でも，どの学級でも同質の授業を行うことができるようにするための工夫。
・児童の「できた」や「楽しい」につながる学び合いや教え合いの研究。
・体育科におけるＩＣＴ機器（タブレット等）を有効活用した指導方法の研究。
・低学年から中学年，高学年と系統立てた指導の研究を深めること。

（部長　廣瀬　　剛）